

2019JAF四国ジムカーナ選手権第6戦 JMRC全国オールスター選抜ジムカーナ第6戦 POTENZACUP'19 SKMCスラロームアタックNo.43 [JAF公認No.2019-7015]

開催日: 8月25日 開催場所: モーターランドたぢかわ 格式: 準国内 主催: SKMC [クラブ登録No.加盟39001]、TEAM.MONKEY [クラブ登録No.加盟39005]

レポート/勝森勇夫 フォト/谷内寿隆



接戦となったNS1クラスは窪田竜三選手がヒート1のタイムで逃げ切った。

たぢかわ復活第2戦は各クラスで天王山の戦いが勃発!

“モーターランドたぢかわ”に、ジムカーナの、タイヤのスキッド音が帰ってきた。西日本を襲った昨年7月の豪雨によって周辺の道路が崩落して以来、不通になっていたアクセス路が今年の春、ようやく開通。それに伴い、ジムカーナの地区戦も例年通りに開催され、今年は全7戦の内、第3戦と、この日行われた第6戦が、ここを舞台に開催された。コースジムカーナを得意とする選手には、待望の“たぢかわラウンド”の復活だ。

今季の四国ジムカーナ選手権も、この日の決戦を含めて残すところ2戦のみ。タイトル争いもいよいよ大詰め、当日の戦績によってシリーズ戦が決まるクラスも多い。ポイント数でリードする選手にとっても、追い上げる選手にと

っても、負けられない一戦が、雨模様といわれた天気予報を振り切る夏空のもと、定刻通りにスタートした。

西村敦男、乃一智久、小山修平のトップ3がシリーズを競り合うR1クラスの第1ヒートは、シリーズ3番手につける小山選手が2位以下を1秒以上離し、トップで折り返す。R2クラスの1ヒートは、シリーズ首位の土居清明選手がこの日も圧倒的な速さ。当日のクラストップとなる1分33秒498の1番時計をマークした。「最近では自分の勝ちよりも、競技者を増やすことに力を入れている」と話すベテランが、タイヤに厳しいダブルエントリーのハンディをもとめず、ヒート1から他を寄せ付けぬ速さを見せた。

高芝大輔、鎗内良壯の2強を3番手の仙波秀

剛選手が追い上げる様相の、R3クラス第1ヒート。当日勝てばタイトル奪取の高芝選手が、2番手時計の仙波選手を1秒以上離すトップタイムをマークし、チャンプの座に王手をかけた。R4クラスは、シリーズ首位を独走する佐藤忍選手がこの日も絶好調。完走すればチャンプ確定の戦いだったが、手綱は緩めず、1分31秒623のクラストップタイムでゴールラインを通過。他を寄せつけない速さでシリーズ制覇を決めた。

続くPN1クラスの1ヒートは、シリーズ首位を走る最終出走の徳永秀典選手が途中でコースを見失い、最下位となる波乱の幕開け。これには本人も「気合の空回りですわ」と苦笑い。一番時計はシリーズ2番手の桑原義典選手がマークし、シリーズ戦の勝ち目を残す。NS1クラスは、不出走となった4戦以外ですべて勝ちを収めている窪田竜三選手が、この日も快調さをキープ。トップで第1ヒートを折り返した。

屋休憩を挟んでの再開となった第2ヒート。雲が空を覆いはじめたものの天気が崩れることなく、1ヒートを上回るタイムが期待できた。案の定、ほとんどの選手がタイムを更新し、勝敗は一段と面白くなる。

1. R1はヒート2でスーパーベストを奪った土居清明選手が逆転勝ち。2. R2はヒート1で快心の走りを見せた土居清明選手が優勝。





小山vs西村。1ヒートのツートップによる争いと思われたR1クラスは、スポット参戦で1勝を上げた土居明生選手が、この日も、ここ一発の勝負強さを発揮した。1本目を2秒以上縮める1分36秒フラットのダントツタイムを叩き出し逆転。小山選手はタイムを落とし、1本目をきっちり1秒縮めた西村選手のタイムをもってしても及ばず、土居選手の今季2勝目が確定。同時にタイトル戦の行方も最終戦に持ち越されることとなった。

1ヒートでトップに立った高芝選手が勝利す

3. PNは徳永秀典選手が逆転勝ちを収めた。4. R4は佐藤忍選手が2本めタイムを上げるもペナルティ。1本めのタイムで逃げ切った。5. 接戦となったR3は仙波秀剛選手がヒート2でただ一人、1分31秒台に入れて優勝をさらった。6. R1で2位入賞の小山修平選手。7. NS1で2位入賞の田中康一選手。8. R3高芝大輔選手は2本めタイムアップならず、2位にとどまった。9. PNで2位入賞の桑原義典選手。10. 佐伯希選手はR1で2位入賞。11. 平田和史選手はR2で2位入賞。12. R1クラス入賞の皆さん。13. R2クラス入賞の皆さん。14. R3クラス入賞の皆さん。15. R4クラス入賞の皆さん。16. PNクラス入賞の皆さん。17. NS1クラス入賞の皆さん。18. NS1で3位入賞の竹下俊博選手。19. PNで3位入賞の児玉直弥選手。20. R1で3位入賞の西村敦男選手。21. 鎗内良壮選手はR3で3位入賞。22. CLクラスは上野尚紀選手が優勝。23. NS1で4位入賞の右城義文選手。24. PNで4位入賞の黒田一選手。25. R1で4位入賞の乃一智久選手。26. 岡村秀一選手はR3で4位入賞。27. NS2の全日本スラロームー尾崎誠治選手はオーバーオールウィンを叩き出して賞状を見せた。

ればタイトルが決まるR3クラスは、シリーズ後半になって調子を取り戻したデフェンディグチャンプの仙波選手が、高芝選手の1本目を1秒2上回りベストを更新。最終戦のみかはNSXが苦手なパイロンコースとなるだけに、

「できれば今日勝って決めたい」とスタート前に話した高芝選手だったが、アタック終盤にまさかのパイロンタッチで勝負あり。タイトル戦はさらに激化する形で最終戦までもつれ込んだ。

桑原選手のタイムを徳永選手が追い上げるようになったことで、戦いの緊張感が増したPNクラスは、2本目でタイムを伸ばしきれなかった桑原選手

を徳永選手が土壇場で捉えてうっちゃり。タイトル争いにも終止符を打った。桑原選手は「車高の調整が裏目に出た」と話すも、攻めの姿勢の結果に悔いはない様子。一方、徳永選手は「スタート前に前走者のタイムが分かり、落ちていて走れたのがよかった」と逆転Vの勝因を語った。

続くNS1クラスは、トップの窪田選手がパイロンタッチを犯すも、1本目のタイムで逃げ切り優勝。自他共に認める「練習の鬼」が、この時点でシリーズを制した。R2クラスも土居清明選手がタイムを落とすも、ヒート1のタイムで勝負を決め、R1クラスの子、明生選手とともに親子ダブルウィンを飾った。

大小の島とパイロンが置ける広場で構成されるのが、たちかわの特長。コース、パイロンと多彩なテクニックを身に着けることができる。

